



JAAGAだより

日米エアフォース友好協会
Japan-America Air Force Goodwill Association

発行: 日米エアフォース友好協会
〒160-0002
東京都新宿区四谷坂町9番7号
ZEKS四谷坂町ビル3F
編集: JAAGA事務局
印刷: アロー印刷株式会社
ホームページ: <http://www.jaaga.jp>

空自向けF-35A初号機がロールアウト ～杉山空幕長スピーチ「航空作戦の様相を大きく変える」～

Rollout Ceremony of the first F-35A for JASDF at Fort Worth, Sept. 23

平成28年9月23日に、ロッキード・マーチン社主催の航空自衛隊向けF-35A初号機のロールアウト式典が米国テキサス州にあるフォート・ワース工場で開催された。

式典には、日本側から、若宮健嗣防衛副大臣の他、航空幕僚長杉山良行空将、渡辺秀明防衛装備庁長官、補給本部長尾上定正空将、航空総隊副司令官前原弘昭空将、空幕防衛部長内倉浩昭空将補、空幕装備課長坂本浩一1等空佐、日本企業幹部等、米国側から、ケンドール国防次官(取得・技術・兵站)、オシオネシー太平洋空軍司令官、ロッキード・マーチン社ヒューソン会長、ロッキード・マーチン・エアロ社カルバルホ上級副社長等が出席した。JAAGAからも岩崎会長、外菌顧問、山崎副理事長及び中島理事が出席した。

伝統的な和太鼓の演奏で開始された式典では、カルバルホ上級副社長、ヒューソン会長、ケンドール国防次官がスピーチを行い、初号機が登場した後に、若宮副大臣、杉山空幕長がスピーチを実施した。



Gen. Yoshiyuki Sugiyama, Chief of Staff, JASDF
"The F-35A has a remarkably excellent system, and it is an existence which greatly changes the aspect of air operation strategy" at the rollout ceremony, Sept. 23

この他、航空自衛隊が保有する既存機、初号機の製造過程及び3空団司令今城弘治空将補等のインタビューに関するそれぞれの映像が上映された。

若宮副大臣は、F-35Aの導入が我が国の防衛にとって意義があり、日米同盟強化の象徴であることを発信したほか、本式典が日米の新たなパートナーシップの起点であると強調した。また、杉山空幕長は、日本の技術の優秀さを引合いにしたアメリカンジョークを交えつつ、F-35Aがこれまでの戦闘機から格段に進化したシステムを有しており、航空作戦の様相を大きく変え得る存在として、我が国の防衛、ひいては地域の安定に多大な貢献をすることへの期待を表明した。

空自は、今後F-35Aを42機取得する予定であり、既に本年4月から30数名の整備要員をフロリダ州エグリン空軍基地に派遣し教育を受けさせており、年末から操縦者もアリゾナ州ルーク空軍基地に派遣し教育を開始する予定である。三沢基地に



Senior officials, from Japan & U.S. military and defense industries, gathered at Lockheed Martin to celebrate the rollout of the first JASDF F-35A Lightning II

においては、関連施設が建設中であり、平成 29 年度中に、MHI の FACO (Final Assembly and Check Out) で最終組立て中の機体の内の 2 号機 (FACO 2 号機) を受領する予定である。その後、米国で製造する 4 機と FACO 初号機の合計 5 機が米国での操縦者教育での使用を終え、平成 30 年度に日本にフェリーされ三沢基地に配備される予定となっている。米

空軍では航空戦闘軍団 (ACC: Air Combat Command) が、本年 8 月 2 日に IOC (Initial Operational Capability) を宣言し、第 5 世代機と第 4 世代機の組合せによる運用要領等について研究中有であるが、今後、空自においても米空軍と情報交換しつつ、運用研究を進めるものとする。

(山崎副理事長記)

在日米軍司令官兼第 5 空軍司令官にマルチネス中將が着任 Lt.Gen. Jerry P. Martinez assumes Command of U.S. Forces, Japan & 5th AF, Oct. 6

10 月 6 日、横田基地において在日米軍司令官兼第 5 空軍司令官交代式が、太平洋軍司令官ハリー・ハリス海軍大将 (Adm. Harry B. Harris Jr.)、太平洋空軍司令官オショネシー空軍大将 (Gen. Terrence J. O'shaughnessy) の執行の元、厳粛に挙行された。

来賓として、片岡晴彦防衛大臣政策参与、空幕長杉山良行空将、総隊司令官福江広明空将をはじめ現役・OB 自衛官や基地周辺自治体の首長等多数が参列した。JAAGA からは、森下副会長、渡邊副会長、石野理事、阪東理事、新井理事が参加した。

交代式は、国旗・隊旗の入場後、米空軍女性将校による日米両国国歌斉唱、牧師による祈りと進んだ後、ハリス太平洋軍司令官が挨拶に立ち、前 5 空軍司令官ドーラン空軍中將 (Lt.Gen. John L. Dolan) (8 月

4 日、J-3, Joint Staff, Pentagon に異動) の功績とともに、新司令官着任までの間、副司令官以下で任務を遂行してきたことを讃えた。また、米軍が抱える 5 つの課題の内、4 つが日本近隣に関連するため、日米韓が一体となって対応する必要性とともに、マルチネス新司令官は日米同盟を深化させ任務を遂行できる司令官であり、大いに期待している旨を述べた。

次に、オショネシー太平洋空軍司令官が、「第 5 空軍は最も古いナンバード・エアフォースとして様々な任務を遂行しており、日米関係に与える影響は大である。マルチネス新司令官は世界各地で実戦経験を有している将軍であり、困難な任務を遂行できる将軍である」と挨拶した。その後、指揮権の継承として指揮官旗が渡された。



(↑) Lt.Gen. Martinez salutes during his Assumption of Command Ceremony, Oct. 6

(↓) Lt.Gen. Dolan spoke during his Relinquishment Ceremony, Aug. 4



Photos by Yokota AB HP



JAAGA members with New Commander Lt.Gen. Martinez

最後に、マルチネス新司令官が「日本勤務が決まると周囲から日本は素晴らしい国だと言われた。今日は来日してまだ2日目だが、既にそれが真実だと感じている。このような素晴らしい環境の中で勤務できることは光栄であり、今後も頑張っていきたい」と力強く挨拶し、整列していた在日米軍の隊員達から最初の敬礼を受けた。

その後は場所を下士官クラブに移し、ポスト・レセプション

が開催された。多数の来賓がマルチネス新司令官を祝福するため長蛇の列を作っていたにもかかわらず、マルチネス新司令官は、我々 JAAGA 会員と記念写真を撮ることを快諾した。

今後、マルチネス在日米軍司令官兼第5空軍司令官の指揮の下、日米関係の更なる深化、米空軍と航空自衛隊及び JAAGA との更なる関係強化が図られることを心から祈念したい。
(石野理事記)

空自 F-2 戦闘機と米空軍 B-1B 爆撃機の共同訓練

Joint Exercise of 2 F-2, JASDF, and 2 B-1B, USAF, Sept. 15th



Photos by Public Affairs, ASO

9月15日、航空自衛隊築城基地所属のF-2戦闘機2機が、グアムのアンダーセン米空軍基地から飛来したB-1B戦略爆撃機2機と、九州周辺で編隊飛行等の共同訓練を実施した。2機のB-1Bはその後韓国空軍戦闘機とも訓練を実施し、グアムに帰投した。

在日米軍司令部の報道発表によると、米太平洋軍司令官 Adm. Harry B. Harris Jr. は「これらの飛行は、北朝鮮による挑発的で地域を不安定化させる行動に対して米国と日本の防衛連帯を示威するものである」と述べた。
(早坂理事記)

空自部隊が米空軍演習(レッド・フラッグ・アラスカ)に参加

"RED FLAG-ALASKA", 310 JASDF members & 12 aircrafts participated



Warriors of JASDF and USAF, who participated in Red Flag-Alaska, Jun. 3rd~18th, took photo in Eielson AFB, Alaska

今年度のレッド・フラッグ・アラスカにおける訓練は、5月24日(火)～6月24日(金)(レッド・フラッグ・アラスカ演習期間は6月3日(金)～6月18日(土))の間行われ、人員約310名、F-15×6機、E-767×1機、C-130H×3機、KC-767×2機が、米国アラスカ州アイルソン空軍基地及びエレメンドルフ・リチャードソン米軍統合基地並びに同周辺空域等において実施された同演習に参加し、防空戦闘訓練、空中給油訓練及び戦術空輸訓練を実施して、部隊の戦術技量及び日米共同対処能力の向上を図った。また、F-15が本邦、アラスカ間を渡洋する際には、空自 KC-767及び米空軍空中給油機による空中給油を受けた。

既に、前号(だより50号)掲載のとおり、演習に先立つ5月11日(水)午後、森下理事長、中島理事等が航空総隊司令官福江広明空将及び航空支援集団司令官小城真一空将をそれぞれ横田基地、府中基地に訪れ、本演習に参加する航空総隊及び航空支援集団の隊員に対するJAAGAからの激励品目録を手交し、訓練の成功を祈念した。まさに、その成功祈願の思いが通じた様な、澁刺かつ直向きな参加隊員達の訓練風景写真が送られてきた。日米エアパワーをアラスカの地で切磋練磨した参加隊員達の点描である。

(杉山(伸)理事記)

During exercise of RFA at Eielson AFB



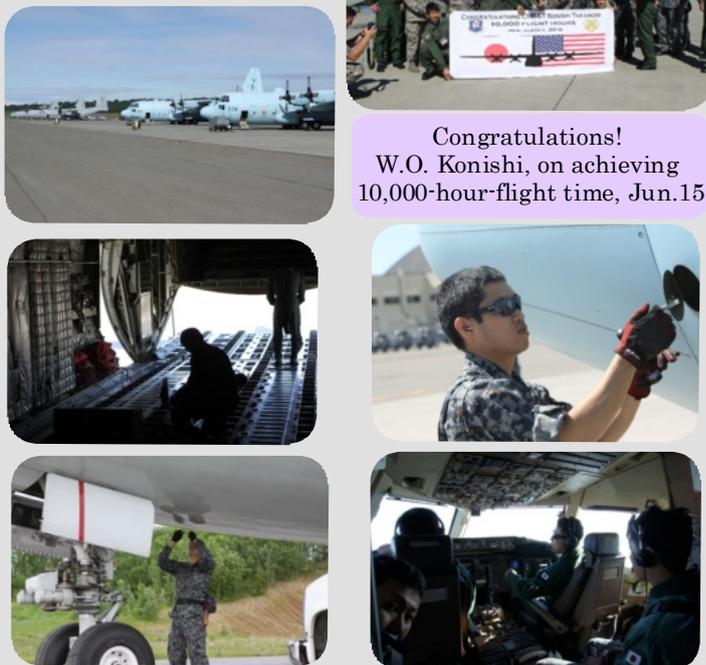
Col. Masuda, Commander of Flight Group, 2nd Air Wing, exchanged gift each other with Lt.Col. Travis D. Ruhl, Commander of 353 CTS/CC



During exercise of RFA at Joint Base Elmendorf-Richardson



Col. Niki, Commander of Flight Group, 1st Tactical Airlift Group, exchanged gift each other with Col. Brian Toth, Commander of 673 ABW



Congratulations!
W.O. Konishi, on achieving
10,000-flight hours, Jun.15

「つばさ会／JAAGA 訪米団」AFA 総会参加等報告 TSUBASA-KAI and JAAGA members participated in AFA general meeting in U.S.

1 概要

平成 28 年度の「つばさ会／JAAGA 訪米団」は、岩崎 JAAGA 会長を団長とする 6 名で 9 月 11 日から 23 日までの間、約 2 週間にわたり訪米した。訪米先は、ハワイ、ネリス空軍基地、ダラス・フォートワース、ワシントン D.C. の 4 か所で、ワシントン D.C. においては、永岩 JAAGA 顧問以下 3 名が本訪米団に合流した。

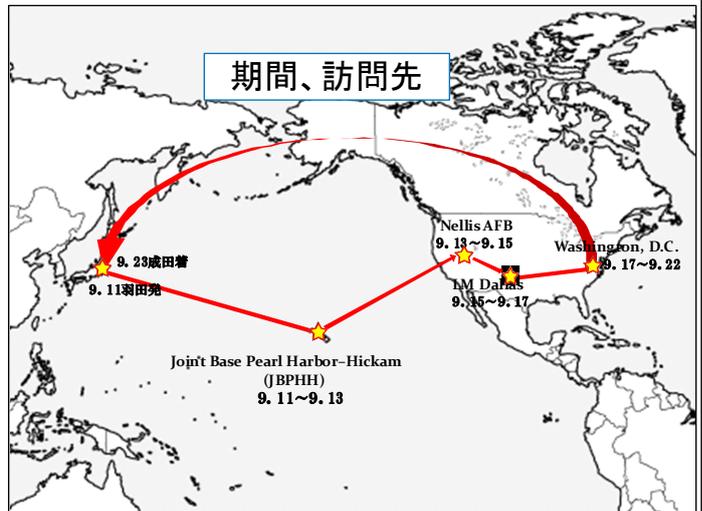
最初にハワイでは、太平洋軍司令部、太平洋空軍司令部、ホノルル総領事公邸を訪問した。次に、ネリス空軍基地では、USAF Warfare Center (以下、USAFWC)、脅威訓練施設 (Threat Training Facility)、ネバダ試験・訓練空域 (Nevada Test & Training Range) を研修し、ダラス・フォートワースでは、ロッキード・マーチン社のフォートワース工場において、F-35 の生産ラインや、列線地区を見学した。最後に、ワシントン D.C. では JAAGA 名誉会員等と交流し、また空軍協会 (以下、AFA) カンファレンスに参加するとともに、空軍参謀本部、統合参謀本部を訪問し意見交換等を実施した。

2 ハワイ

最初の訪問地ハワイでは、まず太平洋軍司令部で、J5 からブリーフィングを受けるとともに意見交換を実施した。太平洋軍担任領域には、米中日の 3 大経済国、核兵器保有国を含む 6 つの軍事大国及び米国の同盟国 7 つのうち 5 つが地域に存在することから課題も多く、特に北朝鮮の核兵器及びミサイル開発や、東シナ海や南シナ海の中国の強圧的行動には強い懸念を示していた。そのような状況下で太平洋軍としては、同盟及びパートナー国と強固な関係を築くことや前方展開を維持することが重要であると強調していた。

次に、太平洋空軍司令部においてブリーフィングを受けるとともに、太平洋空軍司令官等と意見交換を実施した。ブリーフィングでは地域内の脅威や、同盟国との連携の重要性等を強調していた。意見交換においては、在日米軍司令官の指揮統制権限、日本への AOC の設置、サイバーセキュリティ、人工知能(AI)の活用、更には北朝鮮への対応等に関して幅広く意見交換ができた。

特に太平洋空軍司令官 (オショネシー大将) からは



司令官官舎での夕食会に招待して頂き、和やかな雰囲気の中で交流を深めることができた。



JAAGA President and PACAF Commander exchange plaque



At the garden of residence of PACAF Commander (fifth person from the right)

ハワイ総領事主催夕食会においては、三澤康総領事から「米空軍と航空自衛隊の関係は皆さんが退官されても緊密に続き、両者の関係緊密化に大いに貢献していることに敬意を表する」とのお言葉を頂いた。



At the residence of Mr. Misawa (at the very center),
Consul General in Honolulu

3 ネリス空軍基地

ネリス空軍基地では、USAFWC や 414th Combat Training School、脅威訓練施設を研修した。

USAFWC では、あらゆる部隊を対象として運用試験、評価、戦術開発、上級の訓練を提供している。また、教育訓練については、実戦的かつ専門的で高度な教育訓練を担当しており、分野ごとに設置している学校での教育とレッド・フラッグ、ブルー・フラッグ、グリーン・フラッグ、バーチャルの4種類の演習を実施している。2018年1月にはF-35のウェポン・スクールを開設する予定である。

414th Combat Training School では、レッド・フラッグ演習は、ベトナム戦争で多くの被撃墜被害を受



Ground-to-air artilleries displayed in the Threat
Training Facility

けたにも拘らず少ない撃墜率しか得られなかったことに対する反省から始まったとの説明を受けた。



In front of MiG-29

脅威訓練施設では、主としてソ連製等の対空兵器、地上兵器、航空機等を収集して、その特性を分析し教育及び演習に活用している。MiG-23、MiG-29等の航空機や多数の地対空ミサイル、戦車、対空レーダー等が展示してあり、実際に見学することができた。更にネリス空軍基地の列線を見学することができ、F-35やサンダーバーズの機体も見学できた。



At flightline on Neris AB, aircrafts of aerobatic
team "Thunderbirds" are in the background

4 ダラス・フォートワース

ダラス・フォートワースでは、ロッキード・マーチン社ダラス・フォートワース工場を研修した。ここには元在日米軍司令官フィールド退役中將が勤務しており、多大なご支援を頂いた。また、空自F-35A後方連絡官の命尾2等空佐にも同行して頂き、様々な話を伺うことができた。ロッキード・マーチン社は、① Aeronautics ② Missiles & Fire Control ③

Rotary & Mission Systems ④Space Systems の 4 つの部門で構成されており、社員数は約 22,000 人、10 か所に拠点をもち、グローバルに展開している。



In front of the building of Lockheed Martin with Lt.Gen. Field (Ret.), an honorary member and an ex-Commander, USFJ (center)



With F-35A at the back. The man in flight suit is a test pilot (a former member of US Navy)

当工場では F-35 の開発に関するブリーフィングを受けるとともに、F-35 の製造過程も見学することができた。長さが 1.6 km にも及ぶ製造ラインには各年度調達の堆積分で約 130 機が製造過程にあるとの説明があった。その長大な施設を流れ作業で 1 往復半して組み立てを完了するが、組み立ての際には各部位の接合部が不連続になるとステルス性に影響が出るため、各部の製造・成型に±50ミクロンの誤差しか持たない加工機械を導入しているという。

今後の主要なイベントとしては、日本向け初号機 (AX-1) 納入 (9 月)、海外初の F-35 運用基地開設

(イタリア:アmendーラ)、イスラエル向け初号機納入 (12 月)と続き、2016 年末までに 200 機以上、2017 年末までに 340 機以上、2020 年末までに 600 機以上が運用状態になると見込んでいる。日本向けの状況としては、AX-1 ~ AX-4 は 2016 年中にルーク空軍基地に配備 (空自パイロットの教育に使用)、AX-5 は MHI で 2017 年度 3 四半期に完成予定 (電磁干渉試験のため米国へフェリー)、三沢基地への F-35A の初度配備は AX-6 で 2017 年度 4 四半期予定等の説明があった。

5 ワシントン D.C.

(1) JAAGA 名誉会員等との交流

ワシントン D.C.では、JAAGA 名誉会員 (元第 5 空軍司令官や元太平洋空軍司令官)、シュワルツ元空軍参謀長、レイモンド中将 (元第 5 空軍副司令官)、クラム准将 (元第 5 空軍副司令官) 等と交流を深めることができた。エバハート退役大將からは「ワシントン DC においてこのように交流を深める場が定着するに至っている。この機会が日米空軍間の交流にどれだけ貢献しているか計り知れないと感じている」と、またノー



President Iwasaki welcomes Lt.Gen. Dolan, former Commander, 5th Air Force, as an honorary member just before dinner



With full members after enjoying dinner

ス退役大将からは「JAAGAの存在は、日本側が米国の立場に立って世界を見る機会になると同時に、米国側が日本の立場に立って世界を見る貴重な機会となっている。この見方の違いを理解することが日米の相互理解に通じていることを強調したい」とのお言葉を頂いた。

また、夕食会の前にドーラン前第5空軍司令官に対し、JAAGA名誉会員の委嘱式を実施した。ロビンソン前太平洋空軍司令官は不参加のため、後日、名誉会員の盾を郵送することとなった。

(2) AFAカンファレンス参加

AFAカンファレンスは、初日に米空軍らしく感動的な演出の元、Opening & Awards ceremoniesが実施された。最初に、空軍長官 (Secretary of the Air Force, Deborah Lee James) や統合参謀本部議長 (Gen. Joseph Dunford Jr.) 及び空軍参謀長 (Gen. David Lee Goldfein) の講演があり、その後は、将官、有識者等によるセミナー及びパネルディスカッションと続き、同時に企業による装備品展示も実施されていた。川崎重工が日本企業初の展示を実施していたのは、印象的だった。



Chief of the Joint Chiefs of Staff gives a keynote lecture at the AFA Conference

また、カンファレンス期間中に AFA 会長 (Mr. F. Whitten Peters) 表敬の機会もあり、ギフト交換や意見交換することができた。更には航空幕僚長杉山空将及び空幕防衛部長内倉空将補もカンファレンス会場に訪訪されており、お会いすることができた。

特に空軍長官は以下のように講演し、最後に、B-21 の命名を発表した。

『“全地球的な警戒、全地球的な活動範囲、全地球的な戦力投射”が空軍に求められる今日の使命であり、第1次世界大戦から第2次世界大戦、更には湾岸



Courtesy Call on Mr. Peters (second person from the right), Chairman of the board of AFA



With Chief of Staff, ASO and Director of Defense Planning and Policy Department, ASO at the AFA assembly hall

戦争を通して効果的な地上攻撃を可能としてきた。こうした大きな変化と同時に核抑止の体制維持は変化することなく、欧州正面での前方展開と抑止作戦、アジアでの前方展開と FONOP 作戦 (Freedom of Navigation Operation: 航行の自由作戦) をはじめとする抑止作戦を継続している。

また、2018年予算には更なる人件費削減が盛り込まれているが、我々は能力の高い人材を多く必要としている。人材は最優先事項である。装備面では、F-35、KC-46、B-21 が 3 大重要プログラムであるとともに、宇宙分野も不可欠の分野であるが、17 のプログラムで 13 億ドルの削減が提示されており、将来に向けて重大な影響をもたらすことを憂慮している。

WW I で初めて空爆を始めて以来、米国の空爆による戦力投射は米空軍の中心的な任務を成してきたが、その考えは今日も変ることがない。ドーリットル爆撃隊、B-52 の戦略爆撃、B-1B、B-2、そして B-21 に

至るが、本日ここに B-21 を「ドーリットル・レイダース」に因んで「レイダー (Raider)」と命名することを発表する。』



Secretary of the Air Force announces to name B-21 "Raider"

(3) 統合参謀本部 (J5) 訪問

Maj.Gen. John T. Quinta (Air Force)

Deputy Director Politico-Military Affairs-Asia (アジア担当副部長)、Capt. Scott Tait (Navy) Asia Pol- Mil Affairs, Chief Northeast Asia Division(北東アジア担当課長)

日本の安全保障上の当面の関心事及び米国の関心事等に関する意見交換を実施した。特に北朝鮮の核開発に対しては、共通の懸念事項であり、情勢分析(軍事、政治の状況含む)を常に適切に実施しておかなければならないとの認識を共有した。更には、北朝鮮に対する経済制裁の効果や中国の経済的・政治的関与、南シナ海における中国の行動への対応、地域との連携の重要性等についても意見交換することができた。

(4) 空軍参謀本部訪問

ア A2 (Maj.Gen. Geary, Assistant A2)

情勢ブリーフィングを受けるとともに、ロシア及び中国に関する課題について意見交換した。特に、ロシア、中国の戦闘機パイロットのスキル、J-20 や PAK-FA の性能評価等について意見交換したが、A2 は 1990 年代から PACOM で対中情報分析に携わってきており、中国の能力向上には見るべきものがあるとの認識であった。

イ A5/8 (Anthony Reardon, Assistant A5/8)

予算の制約、CAOC の必要性、基地機能の強化、宇宙アセットの重要性、攻防兼備のサイバー戦能力構築、3rd オフセット戦略、第 6 世代戦闘機(米

軍は次世代航空支配 (Next Generation Air Dominance: NGAD) と言っている) 検討等に関して幅広い意見交換が実施できた。

ウ A3 (Lt.Gen. John W. Raymond)

RPA(Remotely Piloted Aircraft)に関してパイロットの養成数やミッション内容、円滑なマルチ・ドメイン作戦の遂行、パイロット不足に関する問題、JICSPOC (Joint Interagency Combined Space Operation Center) 等に関する幅広い意見と共に、旧交を温めることができた。



With Lt.Gen. Raymond, A3 (third person from the right), at the Air Staff Office

エ SAF/IA (Maj.Gen. Martin)

東シナ海及び南シナ海に関する現状認識、国際仲裁裁判所の裁定に関する認識、アジア諸国のマルチな枠組み構築等について幅広く意見交換できた。

6 最後に

AFA カンファレンスへの参加や米空軍基地及び



With SAF/IA at the conference hall

米国国防省への訪問等を通じ、米軍、特に米空軍の最近の動向を理解するとともに、日本及び航空自衛隊に対する信頼と期待の高さ、日米同盟の重要性に対する共通の認識を改めて痛感するとともに、様々な教訓を得ることができた。

本訪米にあたっては、米国防衛駐在官小川 1 等空佐、進藤 2 等空佐、米空軍参謀本部連絡官菅井 1 等空佐には、F-35A のロールアウトセレモニーを控え、空自高官の来訪及び総理訪米に備えた諸調整や準備でかなり多忙な時期であったにもかかわらず精力的にご支援を頂いた。また、太平洋空軍司令部連絡

幹部玉越 1 等空佐は、着任直後でまだ環境に慣れていない中で、猪山 2 等空佐と共にご支援を頂いた。

更に統幕太平洋軍連絡官斎藤 1 等陸佐、元第 5 空軍司令官フィールド退役中将等多くの方々から、事前の献身的な調整及び現地での積極的なご支援を頂いた。また出発前には、航空幕僚監部や情報本部からもブリーフィングして頂くとともに、米空軍基地訪問に関する諸手続き等のご支援も頂いた。関係各位のご協力、ご支援により本訪米が円滑に実施でき、多大な成果を得ることができました。関係各位の皆様へ、訪米団一同心から感謝申し上げます。(石野理事記)

米空軍交換将校「平成 28 年度航空自衛隊英語競技会」を支援 US Air Force exchange officers support "JASDF English Competition 2016"

平成 28 年 11 月 20 日(日)～22 日(火)岐阜基地において、平成 28 年度航空自衛隊英語競技会が開催され、米空軍交換将校 7 名の中から、第 5 術科学校のバナード中佐(Lt.Col. Christopher D. Bernard)、飛行開発実験団のフレドリクソン少佐(Maj. Brian M. Fredrickson)、第 1 術科学校のガサリー大尉(Capt. James P. Guthrie)の 3 名が、4 名の日本人審査員とともに審査にあたった。



(From left) Maj. Fredrickson (Air Development & Test Wing), Lt.Col. Bernard (5th Technical School), and Capt. Guthrie (1st Technical School) are concentrating on judging

3 名は、ブリーフィング競技(幹部、准曹士の部)における質疑応答を含む審査、通訳競技における審査及び在日米軍司令官役を担い、競技会になくてはならない存在として大いに活躍し、航空自衛隊を支援した。

競技会後、3 名から所感を聞くことができた。

まず、本競技会については、「航空自衛隊は、英語を教科書を用いた勉強にとどまらず、訓練として行っている。これは、将来にとって意味のある大事なことだ。このような競技会に参加できて嬉しい。審査員としても、良い体験、勉強になった。空自の英語能力向上は日米のインターオペラビリティを向上させるものであり、日米

双方にとって有益である」との意見があった。また、空自隊員へのアドバイスも聞かれた(JAAGA ホームページ参照)。

更に 3 人が等しく強調したことが、日米隊員の交流についてであり、「聴衆の中に数人の米軍人がいたことが嬉しい。彼らは事前訓練を通して空自隊員との絆を深めてきたのだろう。チームとして個人として、積極的に交流することが大事」、「横田基地で年 1 回体力測定を受けるが、体育館まで歩いて行くときに、徒歩、自転車通勤する大勢の自衛官と一緒に歩いた。日米が一緒にいることは素晴らしい」と喜びを露わにしていた。

JAAGA に関しては、「JAAGA のニュースレター、特に交換将校の記事を楽しみに読んでいる。空自 OB としての活動に感謝する」との賞賛の声があった。

(本競技会の概要については、つばさ会のホームページ(<http://www.tsubasakai.org/>)及びつばさ会だよりに掲載。)

(木村(和)理事記)



Three US Exchange Officers act as judge, perform the role of USFJ Commander, and are interviewed

日米相互特技訓練の充実 Enrichment of Bilateral NCO Exchange Program between JASDF and USAF in Japan

空自基地における日米相互特技訓練

※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※

平成 28 年度は、昨年度に引き続き、F-35 関連の要員を含めた訓練規模の拡大(差出人員の増加)、訓練効果を更に高めるための導入教育の充実、運用・整備特技に限らない多様な特技の参加者選考、及び空自基地における訓練受け入れにおいて航空基地だけでなく分屯基地(平成 28 年度は新潟及び海栗島)も含めた空自の多様な環境下における実施を重視している。

岐阜基地及び新潟分屯基地において訓練参加者の声を投稿していただいたので、ここに紹介します。
(早坂理事記)

米軍下士官の空自基地受け入れ計画

受け入れ基地	訓練期間	参加人員
新潟分屯基地	28.9.29~10.4	4 名
岐阜基地	28.5.17~5.26	9 名
海栗島分屯基地	29.1~3 調整中	5 名
千歳基地	29.3 調整中	10 名

岐阜基地 (Gifu AB)

飛行開発実験団 准曹士 前任 准空尉 赤座義武

岐阜基地(飛行開発実験団)において、在日米軍下士官の特技訓練を 5 月 17 日(火)～ 26 日(木)の期間受け入れた。在日米軍(嘉手納基地)の航空機整備特技 5 名と動力器材特技 1 名は飛行開発実験団、燃料特技 1 名、消防特技 1 名及び器材検定特技 1 名は第 2 補給処にて、合計 9 名が実施した。

初日は、飛行開発実験団到着後すぐに、対番者との対面及び自己紹介と宿泊施設等の案内を実施した。その中の自己紹介後の休憩時間においては、積極的に対番者がコミュニケーションを取ろうとする姿があり意気込みを感じた。

今回は、統幕最先任の宮前稔明准海尉と在日米軍司令部兼第 5 空軍司令部最先任上級曹長の CMSgt. Terrence A. Greene の二人が特技訓練の視察に来基し、少し緊張する中、ウェルカムパーティーを実施した。パーティーにおいては、椅子取りゲームや尻相撲を盛り込み、英語とジェスチャー等を駆使してルールを説明し、統幕宮前准尉及びグリーン上級曹長他、多くの参加者を得て、このゲームを通じより相互に親密な関係を醸成した。また、所在部隊の方に開催等の案内をしたところ 60 名を超える隊員の参加に関心の高さを感じた。

2 日目は、航空自衛隊、岐阜基地及び飛行開発実験団の説明を実施した後、第 4 高射群、第 2 補給処及び岐阜病院を、午後には飛行開発実験団施設を案内、英語で説明をし、米空軍下士官に岐阜基地を理解してもらうとともに各部隊の隊員の英語能力向上にもつながった。

3 日目からは、各受け入れ部隊による計画の中で特技訓練を実施した。その期間中に体育訓練を 2 回計画した。1 回目は、週末を迎える金曜日に、より一層親密になれるようにバスケットボールを計画し、2 回目は、最終日にバレーボールを計画して、1 回目と比較して名前を呼び合うなどより親密の度を深めコミュニケーションがうまくいっていると確認された。

課外は、太鼓部にて迫力のある演舞と太鼓の体験や、書道部にて団扇に各人の干支の文字を書く等、日本の文化を体験し目を輝かせている様子が伺えた。

休日には、岐阜城の史跡見学を計画し、実際に金華山を登って城の中を見学する等、日本の歴史を垣間見る体験をした。また、登山での挨拶や譲り合い、他の見学者の子供と遊ぶ姿なども見え、有意義な時間を過ごした。

その後、基地准曹会による基地内での BBQ を実施して、より深く親睦を深めることができた。

本研修を通じて、短い期間ではあったが、米軍下士官と隊員との理解を深め岐阜基地の状況を知ることにより、より一層信頼関係が築けたと感じた。また今回参加した隊員にとっては、英語に対する興味や維持向上するためには良い体験であり、今後の活躍に十分期待できる。



CMSgt. Greene observes training



Valuable experiences of Japanese culture through beating Japanese drum and calligraphy

第2補給処 整備部 空曹長 関口真一

第2補給処整備部は5月19日～24日の間、下士官1名 SSgt. Pierce Patrick (計測器特技員)を受け入れました。

受け入れ初日は、消防救出訓練見学、整備部の概要説明と隊員とのディスカッションを行いました。また課業外には彼にとって初めてのとなる陶芸体験を行いました。

翌日は、品質管理課の概況説明と課内研修、そして体育訓練としてバスケットボールを実施しました。受け入れ後、初めての週末は、岐阜城史跡研修及び准曹会主催 BBQ を実施し、他の部隊の隊員と共に親睦を深めることができました。

受け入れ3日目は、検定班にて航空自衛隊計測器整備体制の概要説明を行った後、日米における計測器整備体系の違いについて意見交換を行いました。また実際の校正業務を一緒に行うことで、お互いの計測器整備について見識を深めることができました。

特技訓練実施時には、受け入れ準備の一環で USAF ホームページで調査したところ、彼の業務内容が TTU205 (高度・速度計用計測器) 担当であることが判っていたので、偶然搬入されていた TTU205 の検定作業を一緒に行うことにしました。彼は JASDF における本計測器の検定に強い興味を示していました。

この訓練により、日米間における標準器の違いや手順について活発な意見交換ができ、そして検定業務において「いかにヒューマンエラーをなくし、計測器を高品質に保つか」ということが大事であるとの意見の一致を見ました。

受け入れ最終日は、他部署での受け入れ下士官を含めた3名の合同研修を実施しました。相互特技間の交流を行うべく、午前中は整備部内及び保存指定機の見学を行い、午後は基地消防班及び燃料班の施設や車両の研修を実施しました。

今回の特技交流を通じて、国は違えど、お互い国を守る組織の一員として、それぞれの見識を深めるとともに、英語能力の必要性について体験することができ、非常に有意義なものとなりました。

飛行開発実験団 整備隊 3等空曹 松田隼輔

私は、日米相互特技訓練において、米軍主催の嘉手納基地での訓練(実施期間:3月22日～31日)に幹部1名、空曹8名(7職種)で参加した。その後、岐阜基地で航空自衛隊主催の訓練(実施期間:5月17日～26日)を、私を含めた空曹9名で計画し、6職種の米空軍下士官を受け入れた。

訓練参加前に、訓練で重視されている事項は、「①主体性を持って訓練に参加する ②各人が航空自衛隊の代表であることを自覚し行動する ③文化、習慣等の相互理解や英語能力の向上等色々なことを学ぶ」という教育を受けて訓練に臨んだ。

嘉手納基地の訓練では、初めて会う米空軍人に戸惑いや言葉の壁を感じながらも、英語で集合時間、服装や必要な物品等の確認を行うところから始まった。その後、「3～5分間の英語での自己紹介」、「米空軍側コーディネーターによる礼式や敬礼の座学」、「米空軍におけるリーダーシップの授業」、「バスケットやバレーなどの球技」、「3～4日間の特技訓練」、そして最後に『日米相互特技訓練で学んだ事』を3分間で発表する」という内容の濃い訓練であった。特に、米空軍のブリーフィング時に発表のテクニックを学ぶことができ、有意義な訓練だった。また、自分以外の参加自衛官によるユニークな発表などの技術も参考となったため、有意義な時間を過ごせた訓練であった。

岐阜基地での米空軍受け入れ時には、統幕最先任下士官の宮前准海尉と、在日米軍兼第5空軍グリーン最先任上級曹長が同行されていたことから、本訓練の位置付けの高さを感じた。岐阜基地における訓練では、「基地所在部隊の英語ブリーフィング」、「部隊見学」、「特技訓練」、「球技及び史跡研修等」を計画した。各隊のブリーフィングでは私を含め、空士から空曹長までの隊員が英語を駆使して自隊について説明した。普段、米軍人に発表する機会ほとんどないことから、ブリーフィングにとって良い経験になったと感じた。特技訓練では、米空軍人が自衛隊の航空機整備を体験した後に、米空軍と自衛隊の整備の違いについて意見交換をする



Several scenes of training at Gifu AB
Learning about Gifu AB, Specialists working face to face, Physical Exercise, Social Events, etc.



ことができた。球技や史跡研修においては、職場以外で米空軍人と関わることで自分がエスコートする相手だけでなく、参加者全員と話すことができ、コミュニケーションの幅を広げることができた。また、日本の文化、歴史に触れることで改めて我国日本のことを考える良い機会となった。

相互の訓練を通じて、航空自衛官と米空軍人がお互いの仕事を理解することで、現場レベルでの理解や信頼関係を築くことができた。また、エスコートする隊員だけでなく受け入れた職場の全隊員にとって英語学習をする良いきっかけとなったと感じた。

私は、本訓練の成果や課題を次の訓練に活かすとともに、自身のスキルアップに繋げ、今後も日米での各種



Ice Breaker at Gifu AB with CMSgt. Greene

研修や、訓練、演習等に参加できる機会があれば積極的に参加していきたいと思う。

新潟分屯基地 (Niigata Sub AB)

新潟救難隊 1等空尉 竹町敬二

9月29日～10月4日の間、新潟分屯基地において日米相互特技訓練(在日米空軍特技員の短期受入れ)が実施されました。新潟救難隊が今回訓練受入れを行うにあたり、JAAGA会員の皆様方の格別なご支援を賜り、無事に終了することができましたことをご報告するとともに厚く御礼を申し上げます。

新潟分屯基地における本訓練の受入れは、熊本地震に伴う災害派遣等により幾度となく延期となっていたこともあり、9月末の実施が決定した以降は、新潟救難隊長の指導の下、全隊員一丸となり準備を行い、万全の態勢で受入れに臨みました。しかしながら、我が隊において在日米空軍下士官(以下「米軍訓練者」という)の受入れを行うのは初めてのことであったため、訓練初日にはどのような人物が来るのか、自分たちの英語は通じるのかなど各々緊張の面持ちで米軍訓練者を出迎えました。

訓練の実施にあたっては、日米相互に部隊の概要説明を行うとともに、各班小隊において各米軍訓練者の特技に合わせた研修を実施し、意見を交換することで日米の相互理解を深め、双方の特技能力向上に繋げることができました。また、課業時間外や週末においては歓迎会、新潟県内観光、准曹連合会によるボランティア活動やバーベキューなどを実施し、多くの隊員が米軍訓練者との交流を図りました。元来、英語に苦手意識を持つ隊員が多く、当初は自分からコミュニケーションを取ろうとする隊員は少なかったのですが、最終日には積極的に米軍訓練者と会話に臨む姿が見られ、「来年も受入れを実施したい」、「三沢の米軍基地を研修したい」などの活発な意見も出るようになりました。このように、隊員の米軍人との交流に対する苦手意識の改善を図ることができたことは今回最大の成果でありました。なお、最終日には米軍訓練者の所属部隊である第35戦闘航空団(三沢基地)の最先任上級曹長を含む訓練視察団を新潟分屯基地に迎え、米軍訓練者による本訓練の成果発表及び日米での意見交換を実施し、相互理解の深化及び日米共同対処能力発揮の基盤強化のため、今後も日米相互特技訓練の継続が重要であることを確認しました。

※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※

この度の日米相互特技訓練の受入れは、普段米軍人と接する機会の少ない我が隊において日米の相互理解及び絆を深化させ、部隊の特技能力及び英語能力の向上を図る非常によい機会となりました。特に英語については、片言の単語でも意思疎通は十分にできるという体験を通じ、能力向上のための非常に良い動機付けとすることができました。最後に、新潟救難隊にこのような訓練機会を与えて頂いたことに関係者に対し感謝申し上げますとともに、今回得た成果を今後の部隊の任務遂行及び日米の友好のために活用して行く所存です。



Courtesy Call on Col. Ito, Commander of Niigata Air Rescue Squadron



Firm handshake between CMSgt. Kazuhiko Okumura, SEA, Niigata Air Resque SQ. and CMSgt. Charles W. Fizzell, CCM, 35th FW



Several scenes of training at Niigata Sub AB

米軍基地における日米相互特技訓練

横田基地では9月27日～10月4日の間、第374空輸航空団において、空自隊員19名の特技訓練を実施した。初日のコマンドブリーフィングを含む受入れについては、受入れ担当者である第374空輸航空団儀典部 高水さんのきめ細やかな調整によりスムーズな導入が行われた。

初日には Professional Development Center において、米空軍の下士官資質向上セミナーを体験した。その後のアイスブレイカーには第374空輸航空団最先任上級曹長 CMSgt. Christopher M. Yevchak をはじめ、訓練を受入れる部隊の関係者も出席し、ホスト側の米空軍下士官に対し、日米共同の重要性を説明する等、訓練の動機付けを行い、積極的な訓練の受入れが行われた。また、訓練参加者は米空軍創立記念行事である Air Force Ball に出席し、貴重な経験をすることができた。

嘉手納基地では10月4日～13日の間、第18航空団において、空自隊員19名の特技訓練を実施した。訓練開始当初、台風の影響により開始が危ぶまれたが、幸い台風も通過し、米空軍担当者の迅速な調整により、計画通りの日程で実施することが出来た。嘉手納基地においては米空軍の下士官営内を宿泊先として提供するなど、訓練の効果を高めるべく、担当者による様々な努力が行われ

※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※

た。訓練参加者は、訓練先の職場だけでなく、営舎内での生活も体験することで、多くの知見を得ることができた。三沢や横田と違い、自衛隊が所在しない米空軍基地での訓練はほとんどの場面で英語でのコミュニケーションとなり、まさに英語漬けでの訓練となった。週末にはボランティア作業を合同で行う等、任務だけに限らず、多様な状況で米空軍の文化、習慣を体験した。

三沢基地では第35戦闘航空団において、平成28年11月29日～12月8日及び平成29年3月の2回、空自隊員それぞれ10名の特技訓練が予定されている。
(福永理事記)

空自隊員の米軍基地受け入れ計画

空自隊員の訓練計画		
受入れ基地	訓練期間	参加人員
米空軍横田基地	28.9.27～10.4	19名
米空軍嘉手納基地	28.10.4～10.13	19名
米空軍三沢基地	28.11.29～12.8	10名
同	29年3月予定	10名

米軍横田基地 (Yokota AB, USAF)

※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※

空自隊員の米軍基地における特技訓練の実施状況について紹介する。空自隊員19名(第1輸送航空隊、第3補給処、第3航空団等)が、9月27日～

10月4日、横田基地米空軍下士官との特技訓練に参加した。訓練では C-5M Super Galaxy、374 Security Force SQ.、横田基地下士官居室等の研修が行なわれた。
(早坂理事記).



Several scenes of training at Yokota AB

Photos by Yokota AB HP



沖縄地区の日米下士官交流の進展(地域貢献活動を通じて) Progress of Japan-U.S. NCO Exchange Program in Okinawa (Through regional contribution activities)

嘉手納基地の第18航空団と那覇基地の第9航空団は、「日米下士官交流」を始めました。

この交流は、米空軍の下士官と航空自衛隊の准曹士が協力して地域に貢献できる活動を行うことを目的としています。第1回目の交流は9月20日(火曜日)に那覇基地で行われ、嘉手納基地の第18航空団からは副司令 Col. Christopher R. Amrhein、最先任上級曹長 CMSgt. Charles R. Hoffman の他、下士官7名が参加しました。この日のプログラムは、始めにアムライン大佐及び第9航空団副司令の辻1佐による地域活動の重要性に関する講話が行われ、米空軍と航空自衛隊から隊

員が約150名参加しました。その後、日米の隊員は5つのグループに分かれ、米空軍、航空自衛隊が行っているそれぞれの地域貢献活動について情報を交換した後、今後の活動要領について話し合いました。

第2回目以降の日米下士官交流では、日米の隊員が協力して地域に貢献できる活動について計画を立て、日米の隊員と一緒に活動していく予定です。

この交流の様子は、嘉手納基地のホームページにも掲載されています。

(第9航空団准曹士先任 准空尉 小川和男より)



Vice Commander of 9th Air Wing and Vice Commander of 18th Wing

Scenes of several activities of Bilateral NCO Exchange Program at the 9th Air Wing



Photos by Yokota AB HP

スペシャル・オリンピックを支援 JAAGA supports Special Olympics in Yokota, Misawa and Kadena AB

今年も米軍横田、三沢及び嘉手納基地で、それぞれスペシャル・オリンピックが開催された。JAAGAはその趣旨に賛同し、毎年、スペシャル・オリンピックの活動支援のため寄付を行っている。スペシャル・オリンピックは古代ローマで剣闘士が闘技場に入る時に口にしていた「Let me win. But if I cannot win, let me be brave in the attempt. (わたくしは、精一杯力を出して勝利をめざします。たとえ勝てなくても、がんばる勇気を与えてください)」という言葉を用いたアスリートの宣誓とともに開始される。

米軍三沢基地 (Misawa AB, USAF)

※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※

第30回三沢基地スペシャル・オリンピックが10月15日(土)に青森・岩手両県内から招待されたアスリートと三沢基地所在の米空軍、米海軍、空自及び市民のボランティアが参加して賑やかにこなされた。

当日は、天候にも恵まれ、聖火点灯、日米国歌斉唱、米軍基地副司令 Col. Travis D. Rex の開会宣言で競技を開始し、参加者一同競技を楽しんでいた。JAAGAからは丸山支部長と山本副支部長が参加し、レックス副司令にJAAGAからの寄付を手交した。その際、同副司令からはJAAGAの活動に対する感謝の言葉が述べられた。(丸山三沢支部長記)

今回のスペシャル・オリンピックは、青森県内の5団体施設及び岩手県の1団体施設からのアスリート88名、運営するボランティアは日米合わせて約360名が参加しました。今年は准曹会及び2、3曹会で19名がボランティアとして活動しました。活動内容はアスリートのエスコート、通訳、各競技の手伝い等です。開会式のセレモニーが終了すると同時に、日米2人1組のエスコートがアスリートとともにバスケットボールシュート、ボーリング、25m短距離競争、ラグビートス、豆袋投げ等10種目の競技に参加しました。(北部航空方面隊准曹士先任 准空尉 香山博則より)



Mr. Maruyama, Head of JAAGA Misawa branch, hands small donation to Col. Rex



Volunteers from JASDF, which mostly composed of 2 / 3 (Staff & Technical Sergeant Association) members



Photos by Misawa AB HP



米軍横田基地 (Yokota AB, USAF)

※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※

今回で 37 回を迎える関東スペシャル・オリンピックスが、5 月 28 日 (土) の爽やかな五月晴れのもと、米空軍横田基地内で開催された。

和やかな雰囲気の中、参加選手の入場行進が開始されるとスタンドからは割れんばかりの拍手で選手たちを迎え、選手たちは笑顔で応えていた。日米両国国歌独唱で開会式が始まり、日米両国の選手の力強い宣誓で競技が開始された。競技はグラウンドのトラック競技の他、ボーリングや水泳等、それぞれの会場で熱戦が繰り広げられた。

各競技を支援しているのが陸海空各自衛隊の准曹士隊員及びその家族で、本年は関東近郊の各部隊から約 600 名がボランティアとして参加した。この支援は米軍横田基地下士官団からの要請を受けた航空自衛隊連合准曹会が中心となり、大会の企画・運営面でも全面的に支援し、

米軍との良好な関係を構築している。特に屋内プールにて実施される水泳競技はやはり海上自衛隊の得意分野であるとのことで、厚木航空基地から参加した上級海曹会のメンバーが、会場の安全を図りつつ運営に携わっていた。

開会式において、本大会の運営に長年にわたり大きく貢献した功績が認められ、自衛隊側の窓口である航空自衛隊連合准曹会々長北林樹准空尉及び横田基地作戦システム運用隊准曹士先任秋元洋一准空尉のお二人に大会会長 SMSgt. Victor Cordero Jr. (374 空輸航空団所属) から表彰盾が贈呈された。

本大会に参加した JAAGA 渉外担当坂東、新井、岩本及び藤田の各理事は、それぞれの会場に出向き参加選手と日米ボランティアの隊員たちを激励しながら、選手・ボランティアと一体となって各種競技を楽しんだ。

(藤田理事記)

Several aspects of the Opening Ceremony



Photos by Yokota AB HP



W.O. Kitabayashi and W.O. Akimoto with Lt.Gen. Dolan and CMSgt. Greene. The two W.O.s are commended for their superb contributions to the operation of this meeting



米軍嘉手納基地 (Kadena AB, USAF)

※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※

カデナ・スペシャル・オリンピックスが11月5日(土)に嘉手納基地において、米空軍第18航空団司令主催で開催され、JAAGAから石津沖繩支部長が参加した。本大会は、米太平洋軍最大のコミュニティ援助活動

プログラムとして実施されている。今回は、1,300人以上の養護アスリート、3,000人のボランティアと5,000人の友人と家族が参加した。(南西航空混成団准曹士先任 准空尉 荻野浩幸より)



Opening Remarks by
Brig.Gen. Barry R. Cornish, Commander
of the 18th Wing, Kadena AB



Opening ceremony



Scenes of games and volunteers.
Participants and volunteers make the event
most successful



Photos by Kadena AB HP

SPORTEX'16A を開催 SPORTEX'16A, a Japan-US friendship golf athletic meet, is held



Under fine weather on Oct. 28, 56 golfers, 38 JAAGA members including Vice President Morishita, 18 USAF members including Brig. Gen. Winkler and special guest & Honorary member Lt. Gen. Angelella (Ret.) enjoy playing field meeting at Tama Hills Golf Course

秋も深まる 10 月 28 日 (金)、今年度の JAAGA ゴルフコンペ「SPORTEX'16A」が米軍多摩ヒルズ・ゴルフコースにおいて開催された。

米軍から第 5 空軍副司令官ウインクラー准将 (Brig. Gen. Winkler) はじめ 18 名、JAAGA から森下副会長はじめ 38 名の合計 56 名のプレーヤーが参加し、日米各 1 名のボランティアが運営を支援した。

なお、訪日中のアンジェレラ元第 5 空軍司令官 (Lt. Gen. Angelella (Ret.)) も参加した。

早朝 5 時にゴルフコースが開門し、受付を済ませた参加者達はクラブハウスに準備された温かい朝食をとり、準備を整え 6 時半から開会式に臨んだ。

開会式においては主催者の JAAGA を代表して森下副会長と 5 空軍を代表してウインクラー副司令官及びアンジェレラ元司令官から挨拶がなされた。続いて、競技の

実施要領について説明ののち、全員の記念撮影を行った。競技はショットガン・スタート、18 ホールスループレーにより、7 時に開始された。

当日は、秋雨前線の影響で関東地方は気温が低く、午後からは雨が予想されていたが、雨の降り始める前に良いコンディションのもとでプレーを楽しみ、親睦を深めることができた。

18 ホールを終えてクラブハウスに戻った各パーティは、テーブルを囲んでゴルフ談義に花を咲かせながら和やかに昼食をとり、閉会式が行われた。

閉会式において、成績発表、表彰が行われ、米側最優秀スコアのリム中佐 (Lt. Col. RHIM) GRS:69 (OUT 37, IN 32) に JAGGA 会長賞を森下副会長から、日本側最優秀スコアの佐口氏 GRS:81 (OUT 41, IN 40) に 5 空軍司令官賞がウインクラー副司令官から、それぞれ贈られた。また、ニアピン賞、ドラコン賞及びラッキー賞 (5 の倍数順位) が該当者に贈られ、米側ボランティアと多摩ヒルズ・ゴルフコースのスタッフに感謝の記念品が贈呈された。

最後にウインクラー副司令官と森下副会長から講評が



Hi! 05:00, it's an opening time



Opening Ceremony

"Good Morning, today is the best day of golfers, so no rain, no wind and no excuse"

あり、本競技会が和気藹々と円滑に進行し親睦を深める機会となったことに対する感謝の意と開催に尽力のあった米軍関係者とJAAGA 役員への労いの言葉とともに、

次回の開催にも多くの人に参加して、ますます親睦を深められるよう祈念する旨の話があり、次回開催を楽しみにして解散した。
(福永理事記)



At the Closing Ceremony,
both Vice President Morishita and Brig.Gen. Winkler
remarked
" We enjoyed and enhanced our friendship & goodwill.
See you all next time"

(↓) Awardees



(←) Thanks Gift Presentation



Luncheon meeting with smile



(from left) Gen. Hokazono (Ret.),
Vice Comamder Brig.Gen. Winkler
and Vice President Morishita



(from left) Lt.Gen. Nakashima (Ret.),
Gen. Kataoka (Ret.),
Lt.Gen. Angelella (Ret.)
and Gen. Saitoh (Ret.)

米軍人の「ねぶた 2016」参加を支援 JAAGA supports participants from Misawa Air and Naval Base into Nebuta Festival

8月6日(土)三沢支部は、恒例の「米軍三沢基地各リーダー等の青森ねぶた祭り参加及び青龍寺昭和太見学の支援」を実施しました。参加者は、米空軍三沢基地司令 Col. R. Scott Jobe 家族(3名)、第7艦隊哨戒部隊(CTF-72)副司令 Capt. Paul E. Pevely 家族(5名)、第35戦闘航空団最先任上級曹長 CMSgt. Charles W. Frizzell 家族(3名)、第35医療群司令 Col. Leigh Swanson 家族(3名)、第35戦闘航空団司令秘書 Ms. Any Kesler、司令通訳長谷川氏及び広報部外館氏とJAAGA 三沢支部の山本夫妻の計19名で実施しました。当初の計画では23名の参加予定でしたが、副司令レックス大佐他3名は出張等により参加時間に間に合わずに欠席しました。レックス大佐から「参加できずに大変残念です。来年は必ず参加したい」との連絡をいただきました。

昨年は、参加者から青龍寺昭和太の見学時間が短いのご意見をいただき、今年は、三沢基地の出発を13時として30分早く出発しました。今年の大形バスの運転手が日本人の運転手であり、米軍運転者の教育係でもあるベテランの運転手に来ていただき、予定よりも30分も早く青龍寺に到着しました。見学時間1時間半の予定が2時間になり、ゆっくり見学できると全員で喜んでい



Col. Jobe and his family in front of a five-storied pagoda in Shoryu-ji Temple

ましたが、当日の気温が35度以上の真夏日となり、森の木々で風もさえぎられ、太見前や内部では体感温度が40度以上と感じられました。境内の休屋で誰が見つけたのか「氷」の看板で思わず「日本のコットンアイス(かき氷)が食べたい」と全員が集まってきて、コットンアイスで一息つきました。境内では枯山水の庭園、五重塔、昭和太、その他不動明王等の太見像を見学しました。説明については、インターネットの資料を配布したため現場では簡単な説明で済むことができました。

その後、青森ねぶた会場へ移動し、祭り衣装に着替えを始めました。ほぼ全員が順調に着替えを進めるなか、ペイバリー副司令は身長が高く腰回りが大きいため

補助者2人がかりで着替えをし、その奮闘ぶりに周りが笑顔に包まれました。着替えの終わった人たちが裏庭に集合し、出発時間までねぶたダンスの練習及び軽食並びにビール等で喉を潤しながら出発時間までを過ごしました。

今年の土曜日は、夜間運行最後の土曜日で天候にも恵まれ普段よりも人出が多く、祭り参加者や見学者の興奮が肌に伝わってきました。我々一行の参加団体は、青森市役所ねぶた会でした。青森市役所ねぶた会の参加者だけでも500人以上、参加者全員が非常に興奮しながら大いにねぶた祭りを楽しむことが出来ました。太鼓や笛の音につられ「ラッセラー、ラッセラー、ラッセラーラッセラー」の掛け声も自分たちで声を出して日本人参加者をリードする場面も見られました。午後9時に花火が上がり、2時間のねぶた祭りを興奮のうちに堪能し、祭りが終了しました。終了後、混雑が予想されるため急いで着替え等を済ませ、青森を後にしました。バスの中は祭りの話で盛り上がり、全員に祭りの感想を質問したところ、全員が口をそろえて非常にエキサイトし祭りを楽しんだとの返事をいただきました。その中で7歳のお子様から「今までの人生で一番楽しかった」と言われ、苦笑しながら、昔、日本人のオリンピック水泳選手にも同じことを言った選手がいたことを思い出しました。

帰路も非常に車が多く渋滞していましたが、ベテラン運転手のおかげで23時30分頃に基地に到着し、解散することができました。解散するときには、全員から再度「非常に楽しかった、有難うございました。来年もよろしく」とご予約をいただきました。

(山本三沢副支部長記)



Commemorative picture of participants for Nebuta-Festival in Aomori city, Aug. 6



Team Misawa and their family in Nebuta costume "Yukata" participated in Nebuta Festival in Aomori City as Haneto dancers, Aug. 6



Capt. Pevely and his family in front of Showa-Daibutsu in Shoryu-ji Temple



Too hot,.....35° C !!
We need Cotton-Ice
" KAKIGOHRI"



CMSgt. Frizzell and his daughter in front of Showa-Daibutsu in Shoryu-ji Temple

横田基地エア・フォース・ボール 2016

Air Force Ball 2016 in Yokota AB in celebration of 69th birthday of USAF

米空軍創設 69 周年を祝う横田基地 Air Force Ball が、9 月 23 日 (金)1800 から横田基地太陽コミュニティーセンターにおいて、横田基地司令 Col. Kenneth E. Moss 主催で開催された。国旗入場、両国国家の独唱、神への祈り Col. Regina C. Aune, USAF, NC (Ret.) 挨拶等のセレモニーが行われた。軍人、シビリアンともに正装で、特に女性はカラフルなドレスで会場は華やいだ雰囲気であった。地元の首長、協力団体等も招待され、空自から航空総隊司令官福江広明空将等多くの自衛官が出席した。JAAGA からは新井、岩本及び藤田各渉外理事が参加した。美味しい食事と楽しい音楽やダンス、祝いの宴は夜遅くまで続いた。(岩本理事記)



Col. Regina Aune (Ret.) addresses the crowd during the 69th Annual Air Force Ball, Sept. 23
(Photo by Yokota AB HP)



JAAGA members, Mr. Arai, Mr. Iwamoto and Mr. Fujita are invited, celebrate and enjoy Air Force Ball at Yokota AB together with Team Yokota:
(↑) Maj.Gen. Charles G. Charotti,
(←) Maj.Gen. Thomas P. Harwood III,
(↓) Col. Kenneth E. Moss
and CMSgt. Christopher M. Yevchak



2016 横田基地日米友好祭が開催 Yokota Air Base opens doors for the 2016 Japanese-American Friendship Festival

2016 横田基地日米友好祭が、9月17日(土)及び18日(日)の両日開催され、9月17日(土)1300から祝賀レセプションが米軍下士官クラブで行われた。地元関係者とともに、空自から航空総隊司令官福江広明空将、同副司令官前原弘昭空将、空自横田基地司令鎌田修一1等空佐、入間基地司令山本祐一空将補、府中基地司令塩田修弘1等空佐等をはじめ多数の隊員が招待された。JAAGAから阪東、新井、岩本各渉外理事及び石川会員が出席した。ホストの米横田基地司令 Col. Kenneth E. Moss は、「皆さん、ようこそ横田基地日米友好祭へいらっしゃいました」に続き「いただきます」と日本語で祝賀レセプションの開会あいさつを行った。約1時間半の懇談、食事等の後、「横田基地はこれからも地域との共存共栄を図るとともに、日米同盟の堅い絆の発信地として努力して行く」とレセプションを結ばれた。曇り気味の天候ながら基地内には日、米、オーストラリア等から多数の航空機が展示され、駐機場や格納庫内は多くの観客で大いに賑わった友好祭となった。(岩本理事記)



(↑)JAAGA members Mr.Ishikawa, Mr.Bando, Mr. Arai and Mr. Iwamoto with Maj. Gen. Thomas P. Harwood III, Commander of 5AF and Ms. Coleman, Special Assistant to Commander



(↑) Lt. Gen. Fukue, Commander of Air Defense Command and JAAGA members celebrated the Friendship Festival at the Reception hosted by Col. Kenneth E. Moss, Commander of Yokota AB



(←)Col. Moss, Commander of Yokota AB, poses with other Yokota leadership before participating in a Bon dance during the 2016 Friendship Festival

Photos by Yokota AB HP

JAAGA 会員の横田基地研修 JAAGA Members' Visit to Yokota Air Base, Sept. 28

JAAGA 会員の横田基地研修が、9月30日(金)に実施されました。

第5空軍副司令官 Brig.Gen. Michael P. Winkler はじめ第5空軍のスタッフの皆様、第374空輸航空団司令兼横田基地司令 Col. Kenneth E. Moss はじめ米軍横田基地隊員の皆様、そして航空総隊司令官福江広明空将はじめ航空総隊司令部のスタッフの皆様、作戦システム運用隊司令兼横田基地司令鎌田修一1等空佐はじめ隊員の皆様の温かいご支援により、有意義で実りある研修となりました。

本研修には、林國満 正会員を団長、山下洋司 法人賛助会員(丸紅エアロスペース(株))を副団長とし、正会員13名、個人賛助会員7名、法人賛助会員12名及び同行理事5名の合計37名が参加しました。

この時期、本邦には秋雨前線が停滞し、天気心配されましたが皆様の日頃の精進の賜物か、時々薄日の差す曇天でまずまずの研修日和となりました。

米軍研修では、第5空軍司令部及び第374空輸航空団司令部において、団長、副団長及び関係理事がウィングラー副司令官及びモス団司令をそれぞれ表敬訪問し、本研修に対する謝意が伝えられました。各司令部ではそれぞれ概況説明を受け、任務、役割及び取り組み等について理解することができました。また、基地内バスツアーと第515航空機動運用群の旅客ターミナル及び大型輸送機のエプロンを実地に見学し、任務、役割の重要性を垣間見ることができました。

お昼は、将校クラブでJAAGA主催の昼食会を行い、米軍からはウィングラー副司令官及びモス団司令以下18名、空自からは福江司令官以下13名の主要幹部に参加いただき、研修団の会員とともにテーブルに着きました。開催に先立ち、林団長から研修受け入れへの謝

意が述べられ、福江司令官及びウィングラー副司令官より、JAAGAの諸活動への謝辞と本研修の歓迎の言葉をいただきました。和やかに食事が進み、会話も弾み、横田基地における航空自衛隊と米空軍がとても良い関係にあることを感じ取ることができました。

本研修の最後、航空総隊司令部研修においては、



(↑) Courtesy Call on Brig.Gen. Winkler, Vice Commander of 5th Air Force by Mr. Hayashi, leader of JAAGA Tour and Mr. Yamashita, vice leader

(↓) Courtesy Call on Col. Moss, Commander of 374th Airlift Wing



JAAGA tour members together with USAF and JASDF commanders and staff members

概況説明及び司令部施設見学の後、司令官から講話をいただき、米空軍との信頼醸成がいかなる場で行われているか理解することができました。

本研修を通じて、安全保障環境の変化にともなって、日米双方が連携の強化・緊密化の更なる進展が必要なことを強く認識していると肌で感じました。そして、様々な場面で友好親善を図ることができ、研修目的を達成することができました。研修受け入れにお力添えいただきました関係者の皆様に心より感謝申し上げます。

(福永理事記)



JAAGA hosted luncheon with Commander of Air Defense Command, JASDF as well as commanders and staffs of USAF and JASDF



Taking picture at the entrance hall of Air Defense Command building with Lt.Gen. Fukue, Lt.Gen. Maehara and other Major Generals

米空軍士官学校交換留学生へのホスト・ファミリー支援 JAAGA members become host families for U.S. Air Force Academy exchange cadets

JAAGA理事ホスト・ファミリーに委嘱

9月13日(火)、防衛大学校において交換留学生のホスト・ファミリーに対する委嘱状交付式が行われた。JAAGAとして毎年、米空軍士官学校からの留学生のホスト・ファミリー支援を行っており、今年度は、石野、岩本、伊藤の各理事がそれぞれマット・グリム(Matthew A. Grimm)学生、ノア・クウォック(Noah F. Kwock)学生、アシュリー・スタントン(Ashley D. Stanton)学生を担当する。この日は、防衛大学校で8月下旬から12月上旬までの1学期間学ぶ、1セメスター留学生10名のホスト・ファミリーが対象で、学生は米国から8名(空軍士官学校3名、陸軍士官学校1名、海軍兵学校3名、バージニア州立軍事学校(VMI)1名)、豪州及び仏国から各1名であった。

委嘱式は午前11時より開始され、國分良成学校長からの委嘱状交付式に続いて、学校長との懇談を行った。学校長のお話では、現在防衛大学校では11カ国(カンボジア、インドネシア、ラオス人民民主共和国、モンゴル、ミャンマー、フィリピン、韓国、シンガポール、タイ、東ティモール、ベトナム)から100名を超える留学生を、語学研修を含め5年間にわたり受け入れている。今回の1セメスター留学生は、1学期間という短い期間ではあるが、その間取得した単位は母国でも認められる制度になっているとのこと。

引き続き昼食会で、留学生と初顔合わせをしたが、彼らの日本語は、学習期間がわずか3年とは思えないほ

ど堪能で、食事をしながらの会話は、ほとんど日本語であった。あっという間に昼食会の時間が過ぎ、日光研修での再会を約束し、防衛大学校を後にした。

(伊藤理事記)



Ph. D. Ryosei Kokubun, President of National Defense Academy, commissioned host family to Mr. & Mrs. Iwamoto at National Defense Academy on Sept. 9

交換留学生と共に日光研修へ

11月5日(土)から6日(日)にかけて、米国空軍士官学校留学生の日光研修にホスト・ファミリーとして石野理事、伊藤理事が参加した。ノア・クウォック学生はご両親が訪日し、河口湖に旅行するため不参加であった。

5日の朝、東武浅草駅に集合し、東武線の特急で日



Host family talking with cadets during luncheon after commission ceremony



National Flags of foreign cadet's countries at the entrance of N.D.A.

光に向け出発。列車内では留学生達の生い立ちや将来の希望、更には米国大統領選にまで話が及び、あっという間に日光に到着。駅では、堀川様(JAAGA 個人賛助会員の高柳様ご息女)、佐藤様(宇都宮海星女子学院高校教諭)及び2名の女子高校生の出迎えを受け、その後、日光東照宮等を見学。女子高校生達は海外での生活経験があり英語も堪能で、留学生達と英語でコミュニケーションをとりつつ本研修を支援してくれた。留学生達も女子高校生達と英語で会話でき、リラックスした中で本研修を楽しんでいた。夕食は高柳様の奥様、堀川様のご主人様にも参加して頂き、ホテル近傍のダイニングレストランで、地元の銘酒と共にいただいた。留学生達も日本食を堪能していた。

翌日は大谷石の産地にある資料館や坑内を見学した。坑内は非常に広く戦時中は軍需工場として使われており、実際に戦闘機も坑内で作られていたとの説明に留学生達も驚いていた。最近は、有名なエンターテ

ナーによるコンサートや映画撮影にも使われているとのことで、留学生達も感心していた。その後、宇都宮市内で行なわれていた餃子祭りで餃子を食べ、旧篠原家住宅等の市内散策等した後新幹線で帰路についた。留学生達とは東京駅で別れたがその際、「非常に楽しく、また案内してくれた女子高校生達との意見交換を通じて日本の高校生の考え方も理解でき、充実した研修ができた。皆さんに感謝したい。」との発言を残し、防大に帰っていった。

本研修は JAAGA 個人賛助会員である高柳様のご厚意によるもので、また研修の事前調整では堀川様、当日は堀川様を始め佐藤様及び2名の高校生の方々に多大なご支援を頂きました。心から感謝申し上げます。留学生達が日本に対する理解を一層深め、今後の日米の友好関係の促進に貢献してくれること、更には今後の空軍将校としての活躍を祈念し、筆をおくこととする。(石野理事記)



Group Photo at Nikko Toshogu Shrine



Dinner with Mrs. Takayanagi and Mr. & Mrs. Horikawa



Former house of Shinohara Family
(important Cultural Property)



Oya underground mine remains
(Oya History Museum)

特集

米空軍交換将校だより

Present circumstances of “Officer Exchange Program between JASDF and USAF”

【要撃管制部門】

航空教育集団 第5術科学校

(Air Training Command, 5th Technical School)

Lt.Col. Christopher D. Bernard

はじめまして、私は愛知県小牧基地の第5術科学校第1教育部で要撃管制幹部課程の教官として勤務している Christopher Bernard (クリストファー・バナード) 中佐です。私はこれまでの約3年半に渡る小牧での勤務



Lt.Col. Christopher D. Bernard

の中で、階級に関わらずたくさんの航空自衛隊員と出会い、共に仕事をすることが出来ました。この機会に私のこれまでについて皆さんに少し知ってもらいたいと思います。

私が米空軍に入隊したのは、大学を卒業した1992年のことです。テキサス州のラックランド空

軍基地での基礎訓練を終えた後、コロラド州ローリー空軍基地で電子技術課程を履修しました。この課程では整備機材のキャリブレーションについて約1年間の教育を受けました。技術課程を終えた後は、サウスカロライナ州チャールストン空軍基地で約3年間勤務し、C-141「スターリフター」や、当時米空軍に新たに配備されたC-17「グローブマスター」用の整備機材校正を行ってきました。1996年には ROTC (予備役将校訓練部隊) に進むことを決め、2年後に任官しました。1998年には会計士官として三沢基地に配置されました。この三沢基地での3年間の勤務を通して、私は日本の魅力に触れ、次第に心を奪われていったのです。

私が職種変更を決め、フロリダ州のティンドル空軍基地に異動したのは2001年のことです。そこで私は1年間に渡る要撃管制官としての訓練を受け、終了後にはE-3早期警戒管制機のクルーとしてオクラホマ州ティンカー空軍基地の第964AACS(機上管制飛行隊)に配置されました。初めの1年半は要撃管制士官として数々の飛行訓練やレッドフラッグアラスカなどの大規模演習

に参加するだけでなく、9.11同時多発テロ後には米国土安全保障省の支援のためノーブル・イーグル作戦にも参加しました。その後2005年に職種をECO(電子戦士官)に変更し、2006年には当時のジョージ・W・ブッシュ大統領のAPEC首脳会談参加の支援や、米陸軍の高射部隊「スティンガー」との統合演習を指揮しました。ティンカー空軍基地を離れる前に第996AACSの電子戦教官として電子戦闘基礎やパッシブ電波探知システムの配備について教育を行いました。

アラスカ州エレメンドルフ・リチャードソン統合基地の第962AACSへ異動になったのは2007年のことでした。アラスカでの勤務では、米国の領空付近を飛行する航空機を探知、追跡するなど、国家防衛作戦に携わりました。これらの任務においては、ECOは非常に重要な役割を担っており、やりがいのある仕事でした。しかしアラスカにいる間に私は再度職種を変更し、MCC (Mission Crew Commander)として勤務を始めました。訓練や大規模演習、そして実任務においてクルーを指揮する立場につくことが出来、とても素晴らしい経験でした。2009年6月には1年間に渡り、カタールのアルウデイド空軍基地に先任防空士官として派遣されました。カタールでの私の任務は、米中央軍の管轄区域全域における作戦運用について、幕僚として統合軍航空作戦司令官を補佐するというものでした。米陸軍、海軍、海兵隊とともに働くばかりか、連合を結ぶパートナー各国とも緊密に連携する任務となりました。度重なる長時間労働や緊急事態等、困難なこともありましたが、



Scene of giving his lesson for students of 5th Technical School

この任務を通じて得た経験は、私の成長の糧となるような満足のいくものでした。

アラスカに戻ると、日本の小牧基地における交換将校として派遣される気はないかと尋ねられました。過去に三沢での素晴らしい生活を経験していた私は、第5術科学学校での仕事のチャンスにすぐに飛びつき、日本に戻ることにしたのです。小牧基地への派遣に先立ち、



With his colleague at 5th TS

カリフォルニア州モンレーにある米国防総省語学研究所で約1年半にわたり日本語を学んできました。

2013年2月に小牧基地に到着すると、第5術科学学校の同僚となる方々の温かい歓迎を受けたことを今でも覚えています。私が米空軍に入隊して以来、最高の経験となりました。私は、第5術科学学校での日々を日本人教官方とともに楽しく勤務しています。ここで出会う隊員達のプロ意識や、任務に対する真摯な態度、仕事に向き合う姿勢には、驚かされるばかりです。これは、素晴ら



With his wife,
Mrs. Yui Fukuhara Bernard,
on Bon dance at Komaki AB



Lt.Col. Bernard gives a lesson



With his students of Class "GCIO-B"

しいリーダーシップのもとに成り立っているのだと確信しています。私が小牧基地に初めて着任した当時の第5術科学学校長、木村達人空将補を始め、現在の学校長である大浦弘容空将補に至るまで、これまで私を支援してくださった皆さんに心から感謝しています。

ここ、小牧基地での勤務を通して、航空自衛隊について学ぶだけでなく、日本や文化に触れるたくさんの機会を得ることもできました。同僚や、部内外の友人達、そして誰よりも私の妻の助けもあって、日本各地を旅して、さまざまなことを見て、日本の素晴らしさを体験できたのです。日本での経験から、人生を今までとは異なる視点から考えるようになり、「忍耐」や「理解」の大切さを学びました。日本のおかげで、人間として、そして士官として成長できたのです。私が日本で過ごした時間は、これからも絶対に忘れることのない特別なものであると確信しています。

※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※

新入会員紹介

正会員 (Regular Member)

氏 名	住 所
平本正法氏	神奈川県相模原市
川口泰志郎氏	東京都府中市
荒木正嗣氏	埼玉県ふじみ野市



Gen. Robinson



Lt. Gen. Dolan

名誉会員 (Honorary Member)

Name	Present position
Gen. Lori J. Robinson	Commander of NORAD/ USNORTHCOM
Lt. Gen. John L. Dolan	Director of J-3 Joint Staff, Pentagon

会 員 募 集

今期は関係各位のご努力で正会員3名の入会を得ることができました。あわせて、正会員へ2名、個人賛助会員へ4名、法人賛助会員へ1社が入会の手続き中です。平成28年12月1日現在、正会員数252名、個人賛助会員数72名、法人賛助会員数43社となっています。引き続き会勢拡張を目標として、精力的に活動してまいります。

今後とも、会員の皆様の勧誘、推薦、情報提供に関するご協力、ご支援を是非とも宜しくお願い致します。推薦若しくは情報提供を頂いた方には直接会員担当理事から連絡させていただきます。

なお、本会への入会につきましては、次のとおりです。

【入会資格】

- 正 会 員 : 航空自衛隊のOB
- 賛 助 会 員 : 航空自衛隊のOB以外の方。正会員3名の推薦が必要です。

【連絡先】

- 郵 便 〒160-0002
東京都新宿区四谷坂町9番7号 ZEEKS 四谷坂町ビル 3F
日米エアフォース友好協会 会員係

- メール

membership@jaaga.jp



寄稿募集の御案内

日米エアフォース友好協会 (Japan-America Air Force Goodwill Association 略称「JAAGA」:以降「JAAGA」という。)は、お蔭様で平成28年7月、創立20周年の節目の年を迎えました。これを機に「JAAGAだより」のより一層の充実を図りたいと思います。

ご愛読の皆様からの投稿はもちろん大歓迎です。また、皆様の忌憚のない意見や感想もお寄せいただきたいと思ひます。

【連絡先】

(郵便) 〒160-0002 東京都新宿区四谷坂町9番7号
ZEEKS 四谷坂町ビル 3F
日米エアフォース友好協会 広報係
(メール) pubaffair@jaaga.jp



編集後記

◇JAAGAだより51号をお届けします。発行部数は約1550部です。会員はもとより、航空自衛隊や米空軍関係者、防衛省内外の多くの皆さんにもご愛読いただき、この場をお借りし感謝申し上げます。

◇中国軍事力の増大や北朝鮮の核兵器開発の進展など、日本を取り巻く情勢は増々厳しさを増しています。51号では我が国防空に関係する動きとして、米空軍B-1B爆撃機とF-2戦闘機の共同訓練の様子やF-35A空自向け初号機のロールアウト式の様子を掲載しました。

◇48号からの連載特集として、空幕教育課のご協力を得て米国交換将校ご本人による紹介記事を掲載しています。51号は第5術科学校(要撃管制部門)の交換将校です。

◇空自准曹士と米空軍下士官レベルの訓練や交流が盛んに行われるようになりました。またスペシャル・オリンピックスの支援には、各基地の准曹会が中心となって活動しています。

JAAGAは引き続きこれらの活動を応援し、「JAAGAだより」にも積極的に取り上げていきます。

◇「JAAGAだより」は、JAAGAホームページ(<http://www.jaaga.jp/>)からもご覧頂けます。JAAGA創立20周年を機に「JAAGAホームページ」の充実を図り、「JAAGAだより」の創刊号から最新号まで、また20周年記念祝賀会参加者に配布した「JAAGA創立20周年記念DVD」の内容も閲覧できます。ホームページの『20年の歩み』にアクセスしてご覧ください。

なお、本DVDご希望の方はJAAGA広報理事までお申し出ください。但し、数に限りがありますので在庫切れの場合はご容赦願ひます。

◇今後もJAAGAの活動を地道に発信していきたいと思ひますので、会員及び現役の皆様のご支援、ご協力をよろしく願ひ致します。 (編集子)